

第 46 回信用事業業務検定試験「信用事業基礎（融資）」受験者の皆様へ
同 「信用事業基礎（総合）」受験者の皆様へ

(株)農林中金アカデミー

今般、2 月 1 日に実施いたしました第 46 回信用事業業務検定試験「信用事業基礎（融資）」、「信用事業基礎（総合）」におきまして、一部設問・解答に不備があることが判明いたしました。不手際を深くお詫び申し上げますとともに、採点上、以下のとおり対応させていただきます。

1 検定試験の設問内容（信用事業基礎（融資）問 36、同（総合）問 48）

財務分析について、誤っているものを 1 つ選びなさい。

- (1) 総資本対経常利益率は、企業に投下運用されている総資本が年間どれだけの利益をあげたかを示す比率で、高いほどよいとされている。
- (2) 固定長期適合率が 100%を超えている場合、固定資産への投資が自己資本と固定負債のほかに流動資産で補っていることになり、健全な状態とはいえない。
- (3) 売上は利益の源泉であり、売上の増加は、即利益の増加に結びつく重要な要素となる。

正解 (3)

- (1) 総資本対経常利益率は、企業全体の収益を表す比率で、高いほどよいとされている。したがって、(1) は正しい。テキスト P101 11-1 収益性を分析する比率
- (2) 固定長期適合率は、100%以下で低いほどよく、100%超の場合は注意が必要である。したがって、(2) は正しい。テキスト P103 11-2 安全性を分析する比率
- (3) 売上は利益の源泉であるが、売上の増加が即利益の増加に結びつくとは限らない。したがって、(3) は誤っているので、本問の正解である。テキスト P105 11-4 成長性を分析する比率

2 不備の内容

上記 (2) の設問に記載している「流動資産」は誤りであり、正しくは「流動負債」となります。このため、誤っているものを選択するという解答は、(3) だけでなく、(2) も正解となります。

また、出題元である通信教育講座テキスト「信用事業基本講座（融資）」P103 においても、以下のとおり同様の記載がありますが、こちらについても「流動資産」は誤りであり、正しくは「流動負債」と記載すべきでした。

(テキストの記載内容)

経営の安定性の面からすると、固定資産は自己資本の範囲内でまかなわれていることが求められるのですが、固定資産を多く必要とする業種ほど自己資本ではまかなえないケースが見受けられます。そのため、固定負債を自己資本と同様に考えて、この 2 つの資金で固定資産をまかなっているようであれば、一応健全とみなせるという考え方から求められる比率です。この比率が 100%以上となるということは、固定資産への投資が自己資本と固定負債のほかに流動資産（正しくは流動負債）で補っていることになり、それでは短期的な支払能力に影響を与えてしまい、これは決して健全な状態とはいえないのです。 算式・・・固定資産/（自己資本+固定負債）×100

3 本件対応

信用事業基礎（融資）問 36、同（総合）問 48 については、「1 つ選びなさい」という問題で、正解が複数になったため、全員正解といたします。ホームページに掲載の正解表も、本日付けで差替えを行いました。

通信教育講座テキストについても、今後見直しを行います。

以 上